

参加者：

古平 毅、太田 陽介、茂木 厚、齊藤 吉弘、齊藤 淳一、井口 治男、石川 一樹、
久保田 誠司、小林 雅夫、中島 綾

1. JROSG12-2 観察研究 進捗状況の報告（太田）

- ・ 4-6 月に登録ペースが落ちており、本年 12 月までとされている登録期間に予定の 300 症例に到達するのが難しい状況。新規施設の参加要請と、既参加施設からの追加症例登録をメーリングリスト等で呼びかけていく。
- ・ 登録期間の延長については JROSG と企業との調整が必要。いまのところ少々の延長については契約再締結までは不要ではという印象。
- ・ これまで報告されている有害事象について
放射線肺臓炎での死亡例報告はなく、国内実臨床において安全に BRT が実施されていると考えている。照射容積内の肺尖部から肺臓炎が発生して拡大したとの報告を受けており、発生部位と照射範囲との関連に興味があり、最終解析にはそのような項目を盛り込みたい。
- ・ LA について完遂率はとれるか？→照射およびセツキシマブ投与の完遂率算出予定。
- ・ IMRT、3D-CRT など照射方法のデータは集積されているか？→照射法と分割回数の情報は集積している。
- ・ WEB 上の EDC 入力に苦労されている施設の情報をデータセンターへあげていただくように周知した。

2. 局所進行喉頭癌に対する治療法アンケート調査（茂木）

- ・ あすオーストラリアの学会で発表予定。
- ・ T3N0 症例に対しては局所照射や非通常分割など多様な治療がなされていた。
- ・ ケモセレクションを含む導入化学療法が比較的多くの施設で行われている印象であった。
- ・ 論文化を検討

3. 根治的放射線療法における QOL 調査の試験（茂木）

- ・ データセンターと相談し金銭的なハードルが高いことや統計家アドバイザーから QOL 調査単独の研究は成立しがたく、新規治療試験の一評価項目として実施してはどうかと助言され現在保留中である。
- ・ そうとはいえ国内の前向き QOL 評価報告はなく、実現できれば貴重なデータとなる。何とか実現できないか、引き続き検討していく。

4. 国内頭頸部 IMRT の構造調査（井口）

- ・ 高精度外部照射研究会のアンケートとの重複を避けるように現在調整中。
- ・ 国内全施設から大まかな情報を集めるのか、頭頸部 IMRT に習熟した施設からのより細かな情報を集めるのか、方向性について検討している。
- ・ 下記の意見が出された。
 - 症例毎のデータを拾うように棲み分けをしてはどうか？
 - 固定多門や回転 IMRT、アダプティブリプランの実施状況など、細かな情報こそ価値があるのではないか？
 - 原発部位をしぼって細かな情報を集めるという方向性はどうか？

5. 論文発表状況について

- ・ 原発不明癌の調査研究については論文化が遅れている、研究事務局に確認して症例数が多い施設で希望があれば論文化作業を進めてもらうことを検討する。
- ・ 再発再照射の調査研究も同様。

6. 今後の新規研究提案について

- ・ 再照射 IMRT の介入試験を検討しているが、治療関連死も想定されるリスクの高い治療でありなかなか実現が難しい。また症例登録が進むかどうかにも困難がある。
- ・ 再照射に関して臨床試験では難しいかもしれないので前向きの観察研究というデザインで調査していくのはどうか。そのプロトコールの中に適応についての目安をしめすことでどのような症例が再照射に適するかという提案をすることは重要ではないか
- ・ 粒子線治療委員会で再照射粒子線治療に関するプロトコールを準備中であるという情報があり、そちらの進捗、内容も情報収集しながら検討していく。